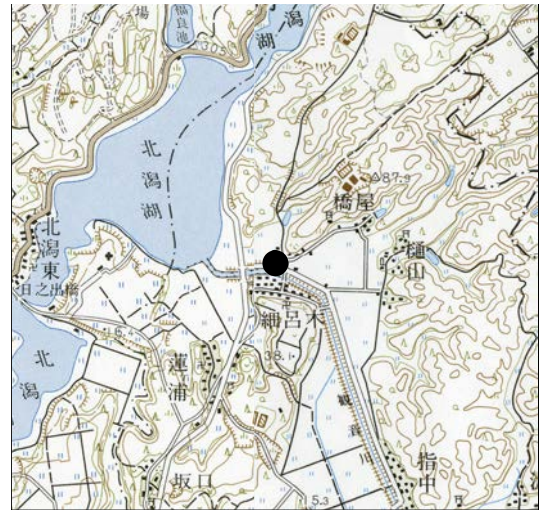


ほそろぎばんどうやまいせき  
2. 細呂木阪東山遺跡

所在地：あわら市細呂木阪東山  
調査原因：県営経営体育成基盤整備（ほ場）  
調査期間：平成25年9月2日～11月29日  
調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター  
調査面積：480 m<sup>2</sup>  
時代：奈良・平安時代



位置図 (S=1/50,000)

### 調査の概要

細呂木阪東山遺跡は、北潟湖の東側、観音川河口近くの山裾に沿って広く展開していると想定されます。調査箇所は北側は山となっており、南側には観音川が流れています。

### 遺構

遺構は確認されませんでした。土層堆積状況は、植物遺体等の有機物を含む腐食土層をベースとします。腐食土層は1 m以上堆積しており、調査箇所が以前沼地であったことがうかがわれます。また、その上部に粘質土や砂質土が互層で水平堆積している状況が確認でき、それらは複数回の洪水などの水に起因する堆積の可能性がうかがわれます。遺物は、腐食土層上面とその上部に堆積する暗灰色粘質土からの出土が最も多いですが、他の層からも出土しており、遺物の集中する箇所はありませんでした。このことは、調査箇所が直接の生活の場で無かったことを示唆します。

### 遺物

遺物は、包含層から奈良・平安時代の土師器・須恵器、木器などが出土しました。遺物のほとんどが細かい破片であるため、詳細な時期決定は困難です。土器が細かい破片で、磨滅していることから、河川の氾濫などで流されたものと考えられます。木製品に関しては、漆器椀の破片や曲物の底板の破片などが出土しています。

### まとめ

調査区周辺は、山側から川側に向かってなだらかに傾斜する地形のため、遺跡の本体は調査箇所より北側に存在したと考えられます。このことから、今回の調査箇所は、遺跡本体から流出した遺物が堆積し包含層を形成した場所と考えられます。

(白川 綾)



調査区西側完掘状況（西から）



木製品出土状況（北から）